

平成21年7月6日

顧問先各位

戸田会計事務所
所長 戸田裕陽

経営ワンポイント

頑張るためには、自分なりの哲学が必要

私の主張している大項目の1つに、ぶっ倒れる位まで働きなさい、というのがあります。でもこの説には反論も沢山あろうかと思えます。今どき風に言うならば『今どき、そんなにシャカリキに働くなんて意味ないよ』とか、『そんなに働くことが人間の幸福なの?』とかの類です。もっともだと思えます。すべての人間の価値観はそれぞれ違いますので、人間の数だけ異なった考え方があって当然です。

私はよく『壁を抜く』という表現を使います。この壁というのは、大きな岩の壁又は鉄の壁という意味ですが、この分厚い壁を、レーザー光線等で照射すれば、穴が開くという意味です。私達の人生の前にも、大きな壁が立ちはだかっています。その壁はもの凄く大きく、かつ堅牢で、一見しただけではとても乗り越えることができません。しかし私は、3日間でも1週間でもこの大きな壁を見続けていると、突破口を見つけることができるのではないかと考える男です。人間本当に真剣に向い合ったら、できないことは無いのではないかと、とも思います。もちろん期間を短く設定されては無理ですが…。できなかったという言葉は、やらなかった人の言葉です。西暦1800年あのナポレオンは、アルプスを人馬一体となって越え、北イタリアに攻め入っています。アルプスは今でも機上から眺めると、山頂付近は雲の上に顔を出し、1年中雪をかぶっています。あのような無謀なことは通常の常識では考えられませんが、これは非常時のバカ力です。大きな厚い壁をつき破るのも、この非常時のバカ力です。そしてこの力は、人間が極限状態に陥ったとき、その人にだけ見える不思議な力です。その為には、前述のぶっ倒れる位まで働くことが必要だと私は考えます。

ですから、そんな大きな壁をブチ抜く必要はないよ、と思う方はそこまで働く必要がないのです。今をのんびりと、楽しく過すことに価値があるのでしょう。

ところが、今の楽しさも欲しいけれどもそれは我慢して、将来の豊かさや楽しさや安心感が欲しいんだという方もいらっしゃる。その方は、なぜ今自分はこんな辛い思いをしなければいけないんだ、という事を心の中で整理しなければいけません。将来お金持ちになりたいからとか、大きくて有名な会社をつくりたいとか、家族を幸福にしたいからとか、世の中の為になりたいからとか、何でもいいですから自分なりの理由を考え、自分の頭と心の中に定着させることが必要です。これができれば、どんな苦勞でも耐えられます。そして忍耐ギリギリの時点で、大きな壁を抜く力を神様が授けてくれるのです。

福沢諭吉の『天は自ら助くるものを助く』という言葉の通りで、自ら向上しようとする人間には、天が運をもたらしてくれます。その逆も真実です。このように、自分にとって人生とは何なのか、働くとはどういうことなのか、家族とは、仕事とは何なのかを考えることが哲学なのです。ヘーゲルやハイデッガーらの学説を学ぶことだけが哲学ではなく、自分の周りにある簡単な事象をテーマにとりあげ、考えるだけです。あなたはなぜ起業したのですか、あなたにとってビジネスでの成功とは何ですか、あなたにとって家族とは何ですか、あなたはどのようにして朝から晩まで働くのですか、という問いに対し、スッキリした解答を出せるようにしましょう。